


<p>育てにくい子にはわけがある SEASON 2 ～しでかす子にもわけがある～</p> <p>第11回 投げ散らかす子にもわけがある ～やってはいけない3つの指導～</p>	<p>サロン限定WEBセミナー</p> <p>2/4(金) 21:00-22:20 @ZOOM</p> <p>サロン内でアーカイブ動画も配信中！</p> <p>事前申し込みは必要なし！</p>	 <p>講師 木村 順</p>
--	---	--

■序章：「投げ散らかす」子へのやってはいけない3つの指導

その1：関わらない様にする(≒放置する)

- ◆**何故?**って理由を聞かれても、よくは分からないけれど、
- (イ) **”そのうち(自然)に”** おさまるもんじゃないの？
⇒ **「根拠のない目論見」**が出発～**「いつまで経っても効果なし」**になりやすい
 - (ロ) **”投げれるモノさえ無くせば”** おさまるもんじゃないの？
⇒ **「無味乾燥な環境」**が出発～やがて**「子どもの発達の停滞」**に陥りやすい
(対物関係も対人関係も経験不足)

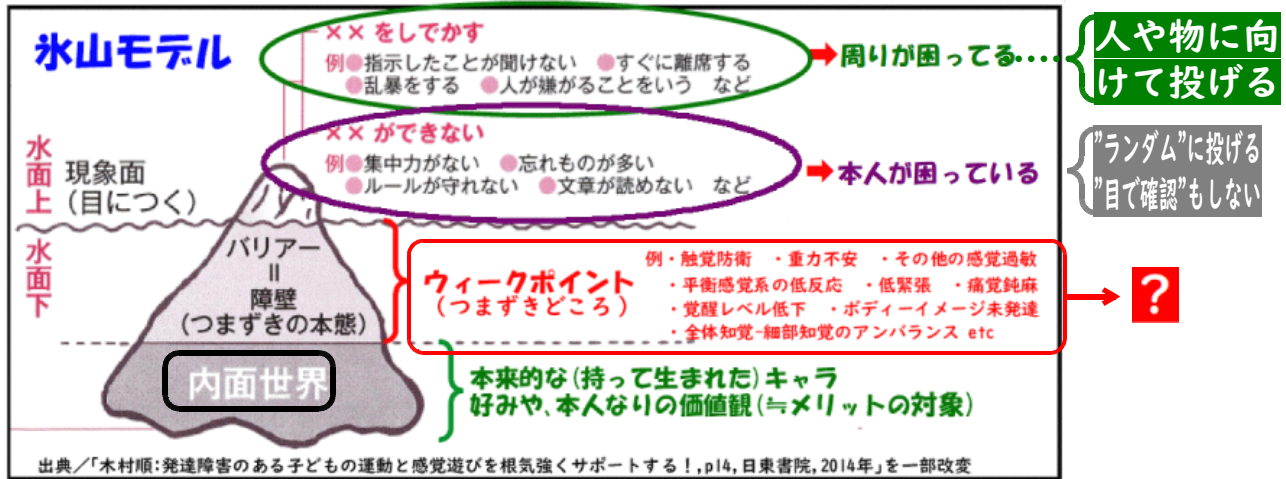
その2：叱る(≒罰する)

- ◆**何故?**って理由を聞かれたら、
- (イ)人として「良いことは良い・悪いことは悪い」と**躰**けていくことは、
当たり前でしょ!
⇒ **「一般常識？」**が出発～効果が薄いと**「罰がヒートアップ」**しやすい
&子どもに**「心理的ストレス」**を残しやすい
 - (ロ)ヒトには「とある行動の直後に**「嫌子(弱化子)≒罰」**が与えられると、その直前にやっていた行動は減弱する」という**「行動原理」**があるから**「決まってるでしょ！」**
⇒ **「糍呑み・受け売り・思い込み」**が出発～子どもに**「心理的ストレス」**を残しやすい
&効果が薄いと**「罰がヒートアップ」**しやすい

その3：その都度、何度も言って聞かせ、片付けを介助する

- ◆**何故?**って理由を聞かれたら、
- (イ)障害の有無に関係なく、「丁寧に言い聞かせ」、「後片付けをさせていく」ことで反省を促す子育て・保育・教育は、**「どの子にも必要でしょ！」**
⇒ **「道徳律」**だけが**「いつまで経っても効果なし」**になりやすい
 - (ロ)”その都度”、”繰り返し”、”声かけしていく関わり”を積み上げることで、その時が来たら、「いけないことをしていた」と**「気づいてくれるものよ」**……その子の**「心に働きかける」**ことが大切なのよ～**「性善説」**
⇒ **「発達の視点のなさ」**が出発～**「いつまで経っても効果なし」**になりやすい
&子どもの**「注意獲得行動」**に乗せられやすい

第1章：「投げ散らかす」という行動の何故？の検討



◆ **タイプO**：「**確信犯**」～周囲への「**悪意や悪ふざけ**」があって投げている場合
 →当然、「**知的レベル**」「**視空間認知**」「**目と手の協応**」等の発達は問題なし
 ……言うまでもなく、**論外**

◆ **タイプA**：「**健常(標準発達)児**」でも、発達の初期には一過性に見られる状態
 (1)ようやく、穴への玉入れ遊びは出来ても、積み木を積むのは困難な時期
 (2)ようやく、手にしたスプーンで”すくおうとし始めた(がまだまだ下手)”時期
 ……この場合は、**やがて自然に(≠放置)改善するはず**
 今回の主題にも関係するが、**”一応”除外**

◆ **タイプB**：「**不随意運動(マヒの一症状)**」が原因で生じる場合
 (1)例えば、「**脳性麻痺(アトローゼ型)**」で、突発的な上肢の伸展活動が出やすい場合
 (2)その他、局所的な脳障害があり、「**舞踏病様の症状**」が生じている場合
 ……この場合は、**疾患論(診断基準&症状の発生機序)の学習**が必要
 今回の主題に入れたいが、疾患論に踏み込めないので、**”一応”除外**

◆ **タイプC**：「**知的発達の遅れ**」による”**視空間認知**”と”**視覚-運動協応**”の未発達
 (1)初期発達(感覚運動～知覚運動水準)の時期に生じやすい”**周辺視**”に伴う場合
 ～”**明暗の変化**”や”**モノの動き**”には、本能的に惹きつけられてしまう
 (2)”**手の動きを目で見て確かめる**”ことが苦手で、”**瞬間的な手の動き**”に
 (3)”**始点の理解**”も”**終点の理解**”も”**始点-終点の理解**”も未発達
 今回の主題に多くが合致するが、**発達論**を押さえての理解が難しい

◆ **タイプD**：「**基礎感覚の未発達や歪み**」が強く出ている場合
 (1)”**平衡感覚系の低反応(=感じ方が鈍い)**”=まずは、姿勢調整が苦手(低緊張)
 &眼球運動(追視・注視等)も未発達 → 中心視が未発達
 (2)”**触覚防衛反応**”の他、**様々な防衛反応が出ている**=情緒の安定性・躍動性の欠如
 → イライラ行動・集中力の未発達
 今回の主題に多くが合致するが、**症状論**を押さえての理解が難しい

■第2章：何故？の掘り下げ(～タイプCとD)

I：認知の発達が、まだ「初期レベル」の段階

→健常(標準発達)児で言えば、1歳手前(9~10ヶ月)頃から1歳過ぎ頃

A. 「『始点-終点』理解」の未熟さ(出来始めてはいるが)

1. 布で隠された目の前のオモチャを取り出すことは出来る(物の永続性理解が成立している)が、手にしたブロックをピッタリサイズの穴にハマ込む(始点-終点の理解)までには至らない
2. 棒からリングを抜き取る遊びで、棒の先端(終点)を意識せず、力任せに抜き取ろうとする

B. 「拡散あそび」^{*1}から「集束あそび」^{*1}にまでは至っていない

↓
花火の火が1点から八方に広がる様な視覚的变化を楽しむあそび

↓
多数のビー玉が1点に集まってくる様な視覚的变化を楽しむあそび

※1：木村用語です

C. 「崩落あそび」^{*2}から「合体あそび」^{*2}にまでは至っていない

↓
積み上げられ、一つの形を成したブロックが崩れ落ちる様子を楽しむあそび

↓
積み木を積む、ブロックを繋ぐといった構成課題に向かうあそび

※2：木村用語です

II：「平衡感覚系」が未発達な場合

A. 「平衡感覚の情報に基づく眼球運動(前庭-動眼系)」が未発達

B. 自分の手や物に眼軸(視軸)を向けていく機能(中心視)が未発達

C. 「『周辺視』あそび」に傾いてしまう

D. 「目と手の協応」や「始点-終点の理解」が未発達になりやすい

III：「触覚防衛反応」が強く出ている場合

A. 手の「識別系」も未発達

B. 「物を持っている自分の手」への「触覚定位」^{*3}も未発達

※3：木村用語です

C. 自分の「手の動き」自体に無頓着になりやすい

D. 「目と手の協応」や「始点-終点の理解」が未発達になりやすい

■第3章：対応策(ストライクゾーンへの投球)は？